

悪性リンパ腫（節性 C77）

リンパ節に原発する悪性腫瘍は ICD-0 分類の場合、「C77. __」に分類される。

節外臓器（リンパ節以外）に発生した悪性リンパ腫はそれぞれの原発臓器の ICD-0 局在コードをあてる。

病期分類については、原発部位を問わず、Ann Arbor 分類を用いる。

1. 概要

わが国の悪性リンパ腫の年齢調整罹患率は、2016 年全国がん登録のデータをみると、男性が 16.7、女性が 12.5 で、男女とも 40 歳代から増加し始め 80 歳代で罹患率が高い傾向にある。男女とも中高年の罹患率が増加しており、年齢調整罹患率も増加傾向にある。年齢調整死亡率(2017 年)は、男性が 4.9、女性が 2.6 で、50 歳代後半から増加し始め、男女ともに高齢ほど死亡率は高い。年齢調整死亡率は男女とも 2000 年あたりまで増加し、以降緩やかな減少傾向が示されている。

悪性リンパ腫はリンパ球に由来し、全身のリンパ組織(節性)およびリンパ節外(節外性)からも発生する悪性腫瘍の総称である。大きく Hodgkin リンパ腫と非 Hodgkin リンパ腫に分けられる。

Hodgkin リンパ腫の年齢調査死亡率は男性が女性より高い。年齢階級別死亡率は 70 歳後半以降増加し、特に男性での増加が顕著である。

非 Hodgkin リンパ腫の死亡数は Hodgkin リンパ腫の数十倍である。非 Hodgkin リンパ腫の年齢調整死亡率は男性が女性の約 2 倍である。年齢階級死亡率は 65 歳から上昇し、高齢ほど高い。

2. 解剖

原発部位

リンパ節 lymph node は、リンパ管 lymphatic duct 走行の途中でフィルター(生物学的濾過装置)のはたらきをする、粟粒ないし大豆大の器官である。小さな腎臓のような形で、凸面から多数の輸入リンパ管 afferent lymphatic venule がはいり、概して凹面から血管および少数の輸出リンパ管 efferent lymphatic venule が出はいりする。線維性の被膜が外面を包み、内部にも梁柱としてはいり込む。被膜下には辺縁リンパ洞が広がり、リンパが流入する。リンパ節の実質は、細網細胞がつくる繊細な“網構造”で指示されている。皮質 cortex とよぶ周辺部には多数のリンパ小節(後述)が並び、細胞の少ない深部を髄質 medulla という。

リンパ節には多数のリンパ球 lymphocyte のほか、形質細胞 plasma cell や大食細胞(マクロファージ macrophage・組織球 histiocyte)などがあり、リンパ球と形質細胞は抗体 antibody を産生し、大食細胞は生体内に侵入した細菌や異物をとらえる。新生されたリンパ球は、輸出リンパ管から送り出される。

リンパ球は生体防御に預かる重要な細胞で、抗体産生・遅延型過敏反応・同種移植片拒絶反応などの、免疫応答を担っている。細胞性免疫に関係する T 細胞、液性免疫に関係する B 細胞、非特異的キラー活性をもつ NK 細胞(ナチュラルキラー細胞)に区別されるが、形態上では区別できない。また B 細胞、T 細胞には各々特徴的な分化抗原が発現され、その由来、分化・成熟段階を区別することができる。

遠隔転移

リンパ球は免疫応答を担うため、全身の臓器をめぐる性質があり、全身どこでも転移する可能性がある。

悪性リンパ腫の組織型別頻度 (REAL 分類による)

分類	日本	九州	九州以外
総数	3,194 例	995 例	2,199 例
B 細胞性	69%	54%	75%
T/NK 細胞性	25	40	18
ホジキン	4	4	5
総数(非ホジキン)	3,025 例	949 例	2,076 例
B 細胞性腫瘍			
前駆 B-LBL	2%	1%	3%
B-CLL/SLL	1	0.2	2
マントル	3	3	3
濾胞性	7	5	8
節外性 MALT	9	9	9
骨髓腫	8	7	9
びまん性大細胞	35	30	38
バーキット	1	1	1
T/NK 細胞性腫瘍			
前駆 T-LBL	2	2	2
鼻・鼻型 NK/T	3	3	3
菌状息肉腫症	1	1	1
AITL	2	4	2
末梢性 T	7	9	6
ATLL	8	20	2
ALCL	2	2	1
総数(ホジキン)	141 例	41 例	100 例
NLPHL	4%	2%	4%
LP	古典的 HL		
NS			
MC			
LD			
	40	49	37
	37	24	42
	6	5	6

LBL:リンパ芽球型リンパ腫、CLL/SLL:慢性リンパ性白血病/小細胞性リンパ腫、MALT:粘膜関連リンパ組織由来のリンパ腫、AITL 血管免疫芽球型 T 細胞リンパ腫、ATLL;成人 T 細胞白血病/リンパ腫、ALCL:未分化大細胞リンパ腫、NLP:結節性リンパ球優位型、LP:リンパ球優位型、NS:結節硬化型、MC:混合細胞型、LD:リンパ球減少型。

3. 亜部位と局在コード

ICD-O 局在	部位
C77.0	頭部・顔面および頸部: 耳介リンパ節・頸部リンパ節・顔面リンパ節・頸静脈リンパ節・下顎リンパ節・後頭リンパ節・耳下腺リンパ節・耳介前リンパ節・喉頭前リンパ節・気管前リンパ節・咽後リンパ節・斜角筋リンパ節・舌下リンパ節・顎下リンパ節・上顎下リンパ節・おとがい下リンパ節・鎖骨上リンパ節
C77.1	胸腔内リンパ節: 気管支リンパ節・気管支肺リンパ節・横隔膜リンパ節・食道リンパ節・肺門リンパ節, NOS・腕頭リンパ節・肋間リンパ節・縦隔リンパ節・胸骨傍リンパ節・肺リンパ節, NOS・胸腔リンパ節・気管リンパ節・気管気管支リンパ節
C77.2	腹腔内リンパ節: 腹部リンパ節・大動脈リンパ節・腹腔リンパ節・結腸リンパ節・総胆管リンパ節・胃リンパ節・肝リンパ節・回結腸リンパ節・下腸間膜リンパ節・小腸リンパ節・腰リンパ節・腸間膜リンパ節, NOS・中結腸リンパ節・脾リンパ節, NOS・大動脈傍リンパ節・大動脈周囲リンパ節・膝周囲リンパ節・肝門リンパ節・門脈リンパ節・幽門リンパ節・後腹膜リンパ節・脾リンパ節, NOS・脾門リンパ節・上腸間膜リンパ節
C77.3	腋窩又は腕のリンパ節: 腋窩リンパ節・上腕リンパ節・肘リンパ節・滑車上リンパ節・鎖骨下リンパ節・上肢のリンパ節・胸筋リンパ節・肩甲下リンパ節
C77.4	下肢又はそけい部のリンパ節: 大腿リンパ節・そけいリンパ節・クロケーリンパ節・そけいのリンパ節・下肢のリンパ節・ローゼンミュラーのリンパ節・膝窩リンパ節・そけい下リンパ節・頸骨リンパ節
C77.5	骨盤リンパ節: 下腹リンパ節・腸骨リンパ節・下腹壁リンパ節・骨盤内リンパ節・閉鎖リンパ節・傍子宮頸リンパ節・傍子宮リンパ節・恥骨結合前リンパ節・仙骨リンパ節
C77.8	多部位のリンパ節
C77.9	リンパ節, NOS

4. 形態コード

WHO 分類 2008 や、現行の WHO 分類 2017(第 4 版改訂)と ICD-O-3 との間には乖離があり、WHO 分類に従ったコーディングが難しかったが、ICD-O-3 の 2012 年改訂版では詳細な分類が増えたため、大部分の乖離が解消された。B 細胞性リンパ芽球リンパ腫および T 細胞性リンパ芽球リンパ腫は、WHO 分類 2008 ではリンパ芽球性白血病と同じものと考えられており、白血病の形態コードを使用する。

病理診断名 (日本語)	英語表記	形態コード
成熟 B 細胞腫瘍	Mature B-cell neoplasms	
B 細胞性慢性リンパ性白血病/小細胞性リンパ腫	B-cell chronic lymphocytic leukemia (CLL)/ Small lymphocytic lymphoma (SLL)	9823/3
B 細胞性前リンパ性白血病	B-cell prolymphocytic leukemia	9833/3
リンパ形質細胞性リンパ腫	Lymphoplasmacytic lymphoma	9671/3
脾臓辺縁帯リンパ腫	Splenic marginal zone lymphoma	9689/3
ヘアリー(有毛)細胞白血病	Hairy cell leukemia (HCL)	9940/3
脾 B 細胞リンパ腫/白血病	Splenic B-cell lymphoma/leukemia, unclassifiable	9591/3
節外性粘膜関連リンパ組織型辺縁帯 B 細胞リンパ腫 (MALT リンパ腫)	Extranodal marginal zone B-cell lymphoma (MZBCL) of mucosa-associated lymphoid (MALT) type	9699/3
節性濾胞辺縁帯 B 細胞リンパ腫	Nodal marginal zone B-cell lymphoma (MZBCL)	9699/3
濾胞性リンパ腫	Follicular lymphoma (FL)	9690/3
	Grade 1	9695/3
	Grade 2	9691/3
	Grade 3A	9698/3
	Grade 3B	9698/3
皮膚原発濾胞中心リンパ腫	Primary cutaneous follicle centre lymphoma	9597/3
マンテル細胞リンパ腫	Mantle cell lymphoma (MCL)	9673/3
びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫, NOS	Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL)	9680/3

悪性リンパ腫

病理診断名(日本語)	英語表記	形態コード
中枢神経原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	Primary diffuse large B-cell lymphoma of the CNS	9680/3
皮膚原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫, 下肢型	Primary cutaneous DLBCL, leg type	9680/3
EBV 陽性老人性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	EBV positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly	9680/3
慢性炎症に伴うびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	DLBCL associated with chronic inflammation	9680/3
T 細胞/組織球豊富型大細胞型 B 細胞リンパ腫	T cell/histiocyte-rich large B-cell lymphoma	9688/3
縦隔(胸腺)大細胞型 B 細胞リンパ腫	Mediastinal (thymic) large B-cell lymphoma	9679/3
血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫	Intravascular large B-cell lymphoma	9712/3
ALK 陽性大細胞型 B 細胞リンパ腫	ALK-positive large B-cell lymphoma	9737/3
形質芽細胞リンパ腫	Plasmablastic lymphoma	9735/3
HHV8 関連キャッスルマン病に発生する大細胞型 B 細胞性リンパ腫	Large B-cell lymphoma arising in HHV8-associated multicentric Castleman disease	9738/3
原発性滲出液リンパ腫	Primary effusion lymphoma (PEL)	9678/3
Burkitt リンパ腫	Burkitt lymphoma (BL)/	9687/3
分類不能型 B 細胞リンパ腫, びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と古典的ホジキンリンパ腫との中間型	B-cell lymphoma, unclassifiable, with features intermediate between diffuse large B-cell lymphoma and classical Hodgkin lymphoma	9596/3
境界領域 B 細胞増殖症	B-cell proliferations of uncertain malignant potential	
リンパ腫様肉芽腫グレード 3	Lymphomatoid granulomatosis grade3	9766/3
移植後リンパ増殖症、単形性	Post-transplant lymphoproliferative disorder monomorphic	各リンパ腫の型による
移植後リンパ増殖症、多彩性	Post-transplant lymphoproliferative disorder polymorphic	9971/1
成熟 T および natural killer (NK) 細胞腫瘍	Mature T-cell and natural killer cell neoplasms	
T 細胞性前リンパ性白血病	T-cell prolymphocytic leukemia	9834/3
T 細胞大顆粒リンパ白血病	T-cell large granular lymphocytic leukemia	9831/3
NK 細胞慢性リンパ増殖症	Chronic lymphoproliferative disorders of NK cells	9831/3
侵襲性 NK 細胞白血病	Aggressive NK-cell leukemia	9948/3
小児期全身性 EBV 陽性 T 細胞リンパ増殖症	EBV-positive T-cell proliferative disorders of childhood	9724/3
種痘様水疱症類似リンパ腫	Hydroa vacciniforme-like lymphoma	9725/1
成人 T 細胞白血病/リンパ腫	Adult T-cell lymphoma/leukemia (HTLV-1+, ATLL)	9827/3
菌状息肉腫	Mycosis fungoides	9700/3
Sezary 症候群	Sezary syndrome	9701/3
原発性皮膚未分化大細胞型リンパ腫	Primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma	9718/3
リンパ腫様丘疹症	Lymphomatoid papulosis	9718/1
原発性皮膚ガンマ・デルタ T 細胞性リンパ腫	Primary cutaneous gamma-delta T-cell lymphoma	9726/3
原発性皮膚 CD8 陽性アグレッシブ表皮向性細胞傷害性 T 細胞リンパ腫	Primary cutaneous CD8-positive aggressive epidermotropic cytotoxic T-cell lymphoma	9709/3
原発性皮膚 CD4 陽性小/中 T 細胞リンパ腫	Primary cutaneous CD4-positive small/medium T-cell lymphoma	9709/1

悪性リンパ腫

病理診断名(日本語)	英語表記	形態コード
節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型	Extranodal NK/T cell lymphoma, nasal-type	9719/3
腸管症型T細胞リンパ腫	Enteropathy-type T-cell lymphoma	9717/3
肝脾T細胞リンパ腫	Hepatosplenic T-cell lymphoma	9716/3
皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫	Subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma	9708/3
血管免疫芽球型T細胞リンパ腫	Angioimmunoblastic T-cell lymphoma (AILT)	9705/3
末梢性Tリンパ腫, NOS	Peripheral T-cell lymphoma, NOS	9702/3
未分化大細胞リンパ腫, ALK陽性	Anaplastic large cell lymphoma (ALCL), ALK-positive	9714/3
未分化大細胞リンパ腫, ALK陰性	Anaplastic large cell lymphoma (ALCL), ALK-negative	9715/3
Hodgkinリンパ腫分類	Hodgkin lymphoma	
結節性リンパ球優位型Hodgkinリンパ腫	Nodular lymphocyte predominance Hodgkin lymphoma (NLP)	9659/3
古典的Hodgkinリンパ腫	Classical Hodgkin lymphoma	9650/3
結節性硬化型古典的Hodgkinリンパ腫	Nodular sclerosis classical Hodgkin lymphoma (NS)	9663/3
混合型古典的Hodgkinリンパ腫	Mixed cellularity classical Hodgkin lymphoma (MC)	9652/3
リンパ球豊富型古典的Hodgkinリンパ腫	Lymphocyte-rich classical Hodgkin lymphoma (LR)	9651/3
リンパ球減少型古典的Hodgkinリンパ腫	Lymphocyte-depleted classical Hodgkin lymphoma (LD)	9653/3

5. 病期分類と進展度

悪性リンパ腫では**T**-原発腫瘍、**N**-領域リンパ節、**M**-遠隔転移は用いない。病期分類はホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫で共通である。

■臨床病期(cS)

I期	・単一のリンパ節領域の浸潤をIとし、単一のリンパ節外臓器または部位の局所浸潤をIEとする
II期	・横隔膜の上下のいずれか一側における2領域以上のリンパ節浸潤をIIとし、単一のリンパ節外臓器または部位の局所浸潤と、その領域リンパ節浸潤があれば、それらと横隔膜に対して同一側にある他の隣接リンパ節領域の浸潤はあってもなくてもIIEとする
Bulky II期	・CT評価で単一リンパ節腫瘍の最大径が 10cm をこえる、または胸郭直径の1/3をこえるII期病変 ※非ホジキンリンパ腫においては、濾胞性リンパ腫で最大径 6cm をこえるもの。びまん性大細胞型リンパ腫では最大径 10cm をこえるもの。
III期	・横隔膜の上下両側にあるリンパ節領域の浸潤をIIIとし、脾浸潤を伴うものをIIISとする
IV期	・関連するリンパ節病変の有無に関係なく1つ以上のリンパ節外臓器の播種性(多発性)浸潤:または横隔膜の同側もしくは両側のリンパ節領域の浸潤を伴う非隣接リンパ節臓器浸潤

●リンパ節領域の考え方

以下の領域は、それぞれ一領域

- | | | |
|---------|--------|----------|
| ・左/右頸部 | ・左/右腋窩 | ・左/右鎖骨下 |
| ・縦隔 | ・左/右肺門 | ・傍大動脈 |
| ・腸間膜 | ・左/右腸骨 | ・左/右鼠径大腿 |
| ・左/右滑車上 | ・左/右膝窩 | |

※ Waldeyer 輪、胸腺、脾臓はリンパ節性病変と扱う ● 隣接臓器への直接的な浸潤は、分類に影響しない。

- 非連続的に存在する消化管の2臓器/2部位に及ぶ病変は、IV期に分類する

- 側性のある節外性臓器の両側病変は、1臓器の病変として扱う
- 節外性臓器の病変が単一臓器に限って、複数存在(同一臓器の多発病変)する場合は、I期と扱う。

◆AおよびB分類(症状) 非ホジキンリンパ腫は症状分類不要

各病期は以下に定義される全身症状のないAと全身症状のあるBに分けられるべきである:

A:	無症状
B:	以下の3症状のうち少なくとも1つを認める ・発初診前6カ月間にみられた、原因不明の、通常体重に比べて10%以上の体重減少 ・38℃をこえる原因不明の発熱 ・盗汗。寝具(掛け布団、シーツなど)を換えなければならぬほどずぶ濡れになる汗。

掻痒症のみ、または既知の感染症に伴う短期間の有熱疾患癌ある場合はB症状とみなさない。

◆肝浸潤

肝浸潤は、画像検査(CT, PET-CT)で腫瘍性病変、結節性病変として認められる。

肝浸潤は常にびまん性のリンパ節外性病変とみなされる。(ステージIV)

◆脾浸潤

画像診断で、脾臓の腫大、腫瘍性病変、結節性病変として認められる。

◇リンパ節病変およびリンパ節外病変

リンパ構造には次のものがある。

- ・リンパ節・Waldeyer輪・脾・虫垂・胸腺・Payer板

リンパ節はいくつかの領域にグループ分けされ、1領域あるいはそれ以上(2, 3, など)が侵されることもある。脾はSで示され、リンパ節外臓器あるいは部位はEで表示される。

◆肺浸潤

一葉に限局した肺浸潤、あるいは同側リンパ節腫大の肺門部周囲進展、あるいは肺浸潤の有無にかかわらず、肺門リンパ節腫大を伴う片側胸水、はいずれも限局性のリンパ節外性病変とみなされる。

■病理学的病期分類(pS)

画像検査(CT, PET-CT)が発達する前、病気を決定するため、開腹による生検と脾摘が行われており、それに基づく病期分類を病理学的病期分類と呼んでいた。現在はこのような病期決定は用いられることはない。

◆病理組織学的情報

これは採取された組織を表す記号によって分類される。次に挙げる表記法は、TNM分類法で分類される遠隔転移(M1区分)と、すべての領域を共有している。しかしながら、Ann Arbor分類と一致させるために、Ann Arbor分類で使用されている頭文字も併記する。

	TNM	Ann Arbor		TNM	Ann Arbor
肺	PUL	L	骨髄	MAR	M
骨	OSS	O	胸膜	PLE	P
肝臓	HEP	H	腹膜	PER	
脳	BRA		副腎	ADR	
リンパ節	LYM	N	皮膚	SKI	D
その他	OTH				

■■進展度分類

Stage	進展度
I	410 限局
II	430 隣接臓器浸潤
III	440 遠隔転移

IV	440 遠隔転移
----	----------

6. 取扱い規約

【病期分類】

造血器腫瘍取扱い規約第1版(2010)では、非ホジキンリンパ腫への適用に関する問題を認めながらも、悪性リンパ腫の病期分類については Ann Arber 分類を採用する旨の記述があり、「AJCC が 2002 年に発行した第 6 版の Cancer Staging Manual に従い、病期分類を行う」と示されている。

【根治度の評価】

取扱い規約が存在しない。

7. 症状・診断検査

1) 検診—悪性リンパ腫に制度化された検診はない。

2) 臨床症状

リンパ節腫脹(圧痛が無く、可動性良好)、発熱、倦怠感、盗汗、体重減少、腹満感など

3) 診断に用いる検査

- ・CT 検査: 病変の存在診断、病期診断に必須。可能な限り造影剤を使用し、頸部から鼠径までを撮影する。1.5cm より大きいリンパ節は異常とみなす。
- ・MRI 検査: 中枢神経・骨髄・軟部組織などの病変抽出に有用。
- ・ガリウムシンチグラフィ: 病変の全身分布をみるための追加検査。
- ・FDG-PET、PET-CT: アイソトープを用いた検査でリンパ腫の病期診断に有用である。CT との融合画像により診断する。
- ・リンパ節生検: 腫大リンパ節の生検による病理学的診断が必須。生検部位は一定以上の大きさがあれば可能な限り侵襲の少ない部位(頸部や鼠径リンパ節など)を選択する。CT や超音波ガイド下のコア針生検が用いられることもある。採取された材料にて、フローサイトメリーによる表面マーカー解析や免疫組織化学染色が行われ、確定診断に至る。最近では遺伝子検査も行われることが多い。
- ・骨髄生検: 病期判定のために骨髄浸潤を確認することは必須の検査である。

非ホジキンリンパ腫の悪性度(取扱い規約 P116)

B 細胞性	T/NK 細胞性
低悪性度 (Indolent: インドレント)	
慢性リンパ性白血病 / 小細胞性 (B-CLL/SLL) リンパ形質細胞性 脾臓辺縁帯 有毛細胞白血病 MALT 節性辺縁帯 B 細胞性 濾胞性 (Grade1, 2)	大顆粒リンパ性 菌状息肉症 慢性型成人 T 細胞性
中悪性度 (Moderately aggressive: 中等度アグレッシブ)	
B 細胞性前リンパ球性 (B-PLL) マントル細胞 濾胞性 (Grade3)	慢性リンパ性白血病 / 前リンパ球性 (T-CLL/PLL) 節外性
中～高悪性度中～高悪性度 (aggressive)	
濾胞性 (Grade 3b) びまん性大細胞型 B 細胞 縦隔発生硬化性大細胞型 血管内大細胞型	末梢 T 細胞性 血管免疫芽球型 NK/T 細胞性、鼻型 未分化大細胞型
超高悪性度 / 急性 (Highly aggressive)	
リンパ芽球型	リンパ芽球型

バーキット(非定型含む)
形質細胞白血病

成人 T 細胞性

8. 治療

治療方針

<ホジキンリンパ腫>

- ・ I, II A 期: 化学療法(ABVD 療法) + 放射線療法併用療法
- ・ II B, III, IV 期: 化学療法(ABVD 療法) (化学療法終了時残存病変に + 放射線療法)

<低悪性度非ホジキンリンパ腫>

- ・ I, II 期: 放射線療法 (+ 化学療法)
- ・ III, IV 期: watch and see (無治療経過観察)、放射線療法、化学療法(リツキシマブ単独、R-CHOP 療法)

<中～高悪性度非ホジキンリンパ腫> (びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の場合)

- ・ I, I E 期: 化学療法(R-CHOP 療法 +/- 放射線療法)
- ・ II, III, IV 期: 化学療法(R-CHOP 療法)

<超高悪性度非ホジキンリンパ腫>

- ・ 急性リンパ性白血病(ALL)に類似した積極的な治療が行われる。

1) 観血的な治療

(1) 外科的治療

一節外臓器に発生した MALT リンパ腫は病期 I、II の場合、手術療法が適応になる場合がある。消化管リンパ腫で、穿孔や出血などの合併症に対する治療として手術療法が行われることもある。

2) 放射線治療

限局期のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫やホジキンリンパ腫で化学療法との併用で、限局性の低悪性度リンパ腫で放射線療法単独で行われる。その他、症状緩和を目的として行われることもある。

3) 薬物療法 (単剤または併用で使用される薬剤名、略語、商品名)

(1) 化学療法

<ホジキンリンパ腫> 進行期は ABVD (ADM, BLM, VBL, DTIC) 療法が標準治療

doxorubicin (Adriamycin, ADM, アドリアシン), bleomycin (BLM, ブレオ), vinblastine (VBL, エクザール), dacarbazine (DTIC, ダカルバジン), etoposide (ETP, VP-16, ラステット), cyclophosphamide (CPA, エンドキサン), vincristine (VCR, オンコビン), procarbazine (PCZ, ナツラン)

<低、中～高悪性度非ホジキンリンパ腫> (R-) CHOP (RTX, CPA, ADM, VCR, プレドニゾロン) 療法が標準治療
cyclophosphamide (CPA, エンドキサン), doxorubicin (Adriamycin, ADM, アドリアシン), vincristine (VCR, オンコビン), rituximab (RTX, リツキシマブ), methotrexate (MTX, メトトレキサート), bleomycin (BLM, ブレオ), etoposide (ETP, VP-16, ラステット), cytarabine (Ara-C, キロサイド), fludarabine (2F-Ara-A, フルダラ), mercaptopurine (6-MP, ロイケリン),

<超高悪性度非ホジキンリンパ腫> 急性リンパ性白血病(ALL)に類似した積極的な治療が行われる

cyclophosphamide (CPA, エンドキサン), vincristine (VCR, オンコビン), doxorubicin (Adriamycin, ADM, アドリアシン), methotrexate (MTX, メトトレキサート), cytarabine (Ara-C, キロサイド), ifosfamide (IFX, イホマイド), etoposide (ETP, VP-16, ラステット), carboplatin (CBDCA, パラプラチン),

※MALT リンパ腫に対する、腫瘍縮小消失目的でピロリ菌除菌が行われた場合は、化学療法に含めることとする。

9. 略語一覧

AITL	Angioimmunoblastic T-cell lymphoma	血管免疫芽球型 T 細胞リンパ腫
ALCL	Anaplastic large cell lymphoma	未分化大細胞リンパ腫
ATLL	Adult T-cell lymphoma/leukemia	成人 T 細胞白血病リンパ腫
CHL	classic Hodgkin lymphoma	古典的ホジキンリンパ腫
CLL	Chronic lymphocytic leukemia	慢性リンパ性白血病
DLBCL	Diffuse large B-cell lymphoma	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫
EBV	Epstein-Barr virus	Epstein-Barr ウイルス
FISH	Fluorescence in situ hybridization	蛍光 in situ ハイブリダイゼーション
FL	Follicular lymphoma	濾胞性リンパ腫

HRS	Hodgkin/Reed-Sternberg	細胞
ISH	in situ hybridization	in situ ハイブリダイゼーション
LBL	Lymphoblastic lymphoma	リンパ芽球性リンパ腫
MALT	Mucosa-associated lymphoid tissue	粘膜関連リンパ組織
MCL	Mantle cell lymphoma	マントル細胞リンパ腫
MZL	Marginal zone lymphoma	辺縁帯リンパ腫
SLL	Small lymphocytic lymphoma	小細胞性リンパ腫

10. 参考文献

- 1) 厚生労働省 全国がん罹患数 2016 年速報
- 2) 公益財団法人がん研究振興財団 がんの統計‘18
- 3) 日本臨床腫瘍学会編 新臨床腫瘍学(南江堂)
- 4) UICC TNM 悪性腫瘍の分類 第8版 日本語版(金原出版)
- 5) SEER Summary Staging Manual 2000
- 6) AJCC Cancer Staging Atlas (Springer)
- 7) 国立がんセンター内科レジデント編 がん診療レジデントマニュアル(医学書院)
- 8) 解剖学講義 改訂2版(南山堂)
- 9) 菊地昌弘、森 茂郎 編 最新悪性リンパ腫アトラス (文光堂)
- 10) 日本血液学会 日本リンパ網内系学会編 造血器腫瘍取扱い規約 第1版(金原出版)
- 11) 公益財団法人がん研究振興財団 がんの統計‘17
- 12) Matsuda A, Matsuda T, Shibata A, Katanoda K, Sobue T, Nishimoto H and The Japan cancer Surveillance research Group. Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2008: A study of 25 population-based cancer registries for the monitoring of cancer incidence in Japan (MCIJ) project. *Jpn J Clin Oncol*, 2013; 44:388-96.
- 13) 国立がん研究センター・がん情報サービス. 部位別がんの統計情報.
http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/site.html